

松鳳山「すっきり」



引退の記者会見に臨む元小結松鳳山。28日、両国国技館（代表撮影）

引退会見、今後は飲食業へ

大相撲で22日に現役引退した元小結松鳳山(38)は、放駒部屋が28日、東京・両国国技館内の相撲教習所で記者会見し、宇佐産業科学高出身、宇佐産業科学高出身、「すっきりした気分、放駒部屋が28日、東京・両国国技館内の相撲教習所で記者会見し

持ち」と晴れやかな表情で語った。今後は親方として日本相撲協会に残らず、飲食業に携わる予定だという。先場所は東西十両12枚目で3勝12敗に終わり、名古屋場所では西幕下5枚目だった。

先場所14日目の千代の国戦で激しい内容の末に敗れ「やり切った気持ちになった。肉体的にも限界だと思った」という。突き、押しを生かして三賞4回、金星5個という実績がある中、思い出の一番には駒大相撲部から初土俵を踏んだ2006年春場所前相撲でのデビュー戦を挙げ「自分の相撲人生で一番ときどきした」と懐かしんだ。

元小結・松鳳山が引退 関取最年長

日本相撲協会は22日、元小結で関取最年長の十両松鳳山(38)は、放駒部屋が28日、東京・両国国技館内の相撲教習所で記者会見し、宇佐産業科学高出身、宇佐産業科学高出身、「すっきりした気分、放駒部屋が28日、東京・両国国技館内の相撲教習所で記者会見し



松鳳山高出身、放駒部屋の現役

引退を発表した。5月の夏場所は東西12枚目で

3勝12敗に終わり、幕下転落が確実な情勢だった。協会には残らず、28日に記者会見を開く予定。

駒大から荒磯親方(元大関若嶋津)が師匠の松ヶ根部屋に入門し、2006年春場所ですごい突き、押し中心の激しい

取り口が魅力で、10年夏場所ですごい突き、押し中心の激しい